



富津市立竹岡保育所
2024.1.11発行

明けましておめでとうございます。昨年より発行させていただいている職員室だよりも、第4号となりました。本年も竹岡保育所の活動をお伝えしていきますので、今まで同様のご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。



2024年は、新年早々、大きな地震や航空機事故のニュースがありました。同じような地震が保育中に起きたら・・・と思うと、改めて私達の仕事が“命を預かっている仕事”であること、日頃からの災害対策が重要であることを再認識しました。保育所では、毎月、様々な災害を想定した避難訓練を行っています。また、職員は救命講習や防災講習も受講しています。救命講習で学んだことを使う場面があってはならないのですが、万が一の時に、知識や技能があるかどうかは重要になってきます。自然環境保育を充実させるためには、安全の確保は必須です。これからも、安全安心な保育、自然を満喫できる保育を行っていけるよう、職員一同、研鑽を重ねていきたいと思ひます。



【11月】

1日に、以上児クラスのお友達は園外保育に行きました。自分達で“行きたい場所”に“どうやって行くか”を決めたので、子ども達も大張り切り。まずは、ふつつんバスで袖ヶ浦市の百目木公園へ。これは「大きな滑り台がある公園を知ってるよ」と教えてくれたお友達がいる、みんなも「そこで遊んでみたい!」と決まりました。他にも「電車に乗りたい」という意見があり、これもみんなが「乗りたい!」と意見が一致。そこで、ふつつんバスで百目木公園に行き、お弁当を食べたら、木更津駅まで送ってもらい、内房線に乗車。ふつつんバスは、先回りして上総湊駅に行ってもらい、みんなは上総湊駅で電車を降り、またふつつんバスに乗って竹岡保育所まで帰る・・・という、とても贅沢な園外保育に行くことが出来ました。子ども達の「～したい」という思いに協力して頂けるバスの運転手さんにも感謝です。



2日は、石原さんの田んぼで稲刈りをしました。今年度は、猛暑の影響で残念ながら、不作だったようです。当たり前のように食べているお米ですが、収穫量は気候に左右されることもあるということを知る機会になったことは良かったと思います。年長さんは、昨年経験していたからか、集中して作業することが出来ました。収穫したお米は、保育所の鉄棒に掛けて乾かしました。



4～5日は、竹岡地区文化祭があり、保育所の子も達の作品も出品させていただきました。未満児クラスのお友達は、葉っぱや手型、足型を使った作品、以上児クラスのお友達は木の实を使った作品と、どれも可愛らしいものが出来上がりました。特に、以上児クラスの置物は、子どもならではのセンスが光る作品で、思わず職員も「これ、欲しい！」と言ってしまうほどの完成度でした。世界に一つしかない、自然物を使ったオリジナル作品が出来上がりました！



15日は、七五三参拝で三柱神社へ行きました。毎年、たくさんの地域の方にお祝いして頂いています。子ども達のために、紅白幕を用意しパイプ椅子も並べ、お土産まで用意して下さっています。この場を借りて、改めて御礼申し上げます。また、これからも、子ども達の健やかな成長を見守って下さるようお願い申し上げます。



【12月】

1日に、生活発表会がありました。今年度は、新たな試みとして、おうちの方にも参加して頂く場を設けました。生活発表会ですので、日頃の生活が見えるよう、知ってもらって体験できるようなスタイルでしたが、おうちの方のご協力のおかげで無事に終えることが出来ました。子ども達は、大好きなおうちの人と一緒に楽しめたことが、何よりも思い出になったかと思えます。

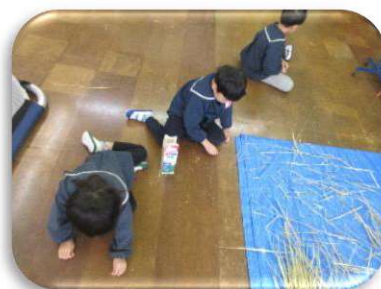
ワークショップで作った染物バッグは、以上児クラスはエプロン・三角巾入れに、未満児クラスは絵本バッグになります。玉ねぎの皮を使った染物遊びを、おうちの方にも知ってもらうことができ良かったです。

レストランごっこでは、おうちの方のアドリブに私達職員も楽しませてもらいました。我が子だけでなく、どの子にも優しいまなざしを向けて下さり、改めて、竹岡の子ども達はみなさんに見守られて育てていただいていることを実感しました。少人数だからこそできる、アットホームな発表会にご協力下さり、ありがとうございました。



13日には、収穫祭を行いました。この収穫祭には、日頃お世話になっている畑の先生、田んぼの先生をご招待しています。今年度は、込宮さん、飯田さん、石原さんご夫妻を招待させていただきました。また、竹岡保育所が地域とどのような交流を行っているか見ていただこうと思い、富津市役所保育課の課長、課長補佐、係長にも来ていただきました。

子ども達はたくさんのお客さんに振る舞う、お味噌汁作りを頑張りました。また、鉄棒に干していたお米を、数日前から手作業で脱穀、もみすりを行い、飯盒で炊きました。この脱穀、もみすりの作業がとても大変だったのですが、大変だからこそ、お米一粒のありがたみがわかったようで、作業中、お米がこぼれると小さな手で一生懸命拾い集めていました。農家さんの大変さを肌で感じ、自分達が口にする食べ物には、こんなにも手間暇かかっていることを実感してくれたかと思えます。



日頃から、クッキング保育を行っているからか、包丁の使い方が上手になってきた年長さん。やはり、何事も経験ですね。最初はどうも出来なくても、経験を重ねるうちに上手になっていきます。子ども達は、たくさんの可能性を秘めています。それがどこでどう花開くかは、誰もわかりません。だからこそ、幼いうちからたくさんの経験をさせてあげたいと思います。その過程で、失敗することも、もちろんあるでしょう。その失敗から何か感じ取ってくれば、それは失敗ではなく、経験になります。竹岡保育所では、職員も含め、みんな経験を大事にしています。新しいことに挑戦する勇気を持って、『はじめの一步』を踏み出してほしいと思います。



収穫祭の最後に、子ども達から来てくれた方へプレゼントがありました。木のプレートに木の枝で名前を記したネームプレートです。シーグラスやドングリで飾りつけもしてあり、これも世界に一つだけの作品になりました。子どもならではの飾りつけがとても斬新で、ステキでした。みなさんに喜んでもらえ、子ども達も嬉しそうでした。



後日談・・・保育課の職員がとても気に入って下さり、なんと、発注が入りました！『ほいくか』と『こどもかていか』というプレートを作ってほしいと言われ、年長さんをお願いすると「いいよ」とすぐに作成に取り掛かる2人。ひらがなの下書きをしなくても、適当な大きさに枝をポキポキ折って、あっという間に文字を完成させていました。いつの間にか、文字の勉強にもなっていたようです。自分達の作品を認めてもらったことは、大きな自信にもなったのではないのでしょうか？富津市役所2階の保育課、こども家庭課の窓口に飾られていると思いますので、ぜひご覧になってください。

21日には、以上児クラスのお友達と1,2歳児のお友達も一緒に、中央保育所へ交流保育に行きました。この交流保育は、11月にさつまいもと柿のおすそ分けをした時に、また遊ぼうねと、子ども達が決めていたものです。竹岡保育所の人数では難しい競争するゲームを一緒にやらせてもらいました。年長さんは、4月になれば一緒に天羽小で過ごす友達です。今から、交流を持って入学をより心待ちに出来たらなと考えています。

※1月には、金谷保育所・中央保育所の3園で、
2月は中央保育所と交流保育を予定しています。



22日にはクリスマス会がありました。サンタさんに手紙を書いた年長さん。“22日に行くよ”とお返事をもらい、楽しみにしていました。当日、なんと、トナカイさんも来てくれ、子ども達はびっくり！サンタさんにプレゼントをもらい、大満足の1日でした。



あっという間に2023年が終わり、2024年がスタートしました。今年度の保育は、残り3か月です。毎日、やりたいこと盛りだくさんの竹岡保育所は、月日が経つのが本当に早いです。子ども達の斬新な発想は、私達職員にも刺激を与えてくれます。また、この時期になると、改めて子ども達の成長も感じます。小さな成長も見逃すことなく、おうちの方と一緒に喜びあいながら、残りの日々も楽しんでいきたいと思えます。